

紀の川の現状（環境編）

近畿地方整備局

環境の現状

1. 水質の現状

1-1 水質の現状

1-2 水質事故

1-3 下水道整備状況

2. 生物の現状

3. 景観

4. 環境保全対策

4-1 内川浄化事業

4-2 紀の川環境保全対策

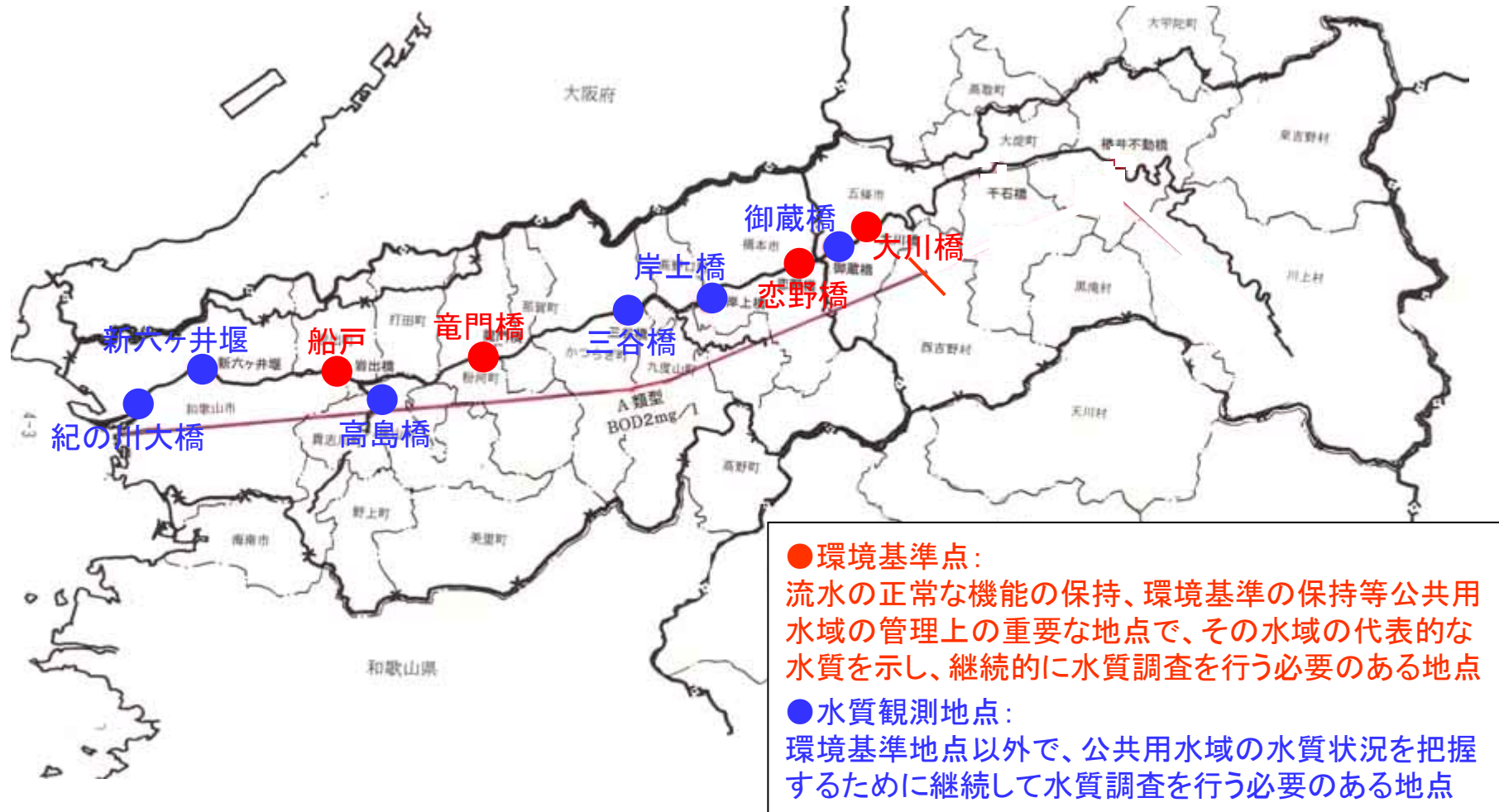
4-3 大滝ダム環境対策

5. 河川利用の現状

1. 水質の現状

1-1 水質の現状

環境基準地点および水質観測地点



水質環境基準

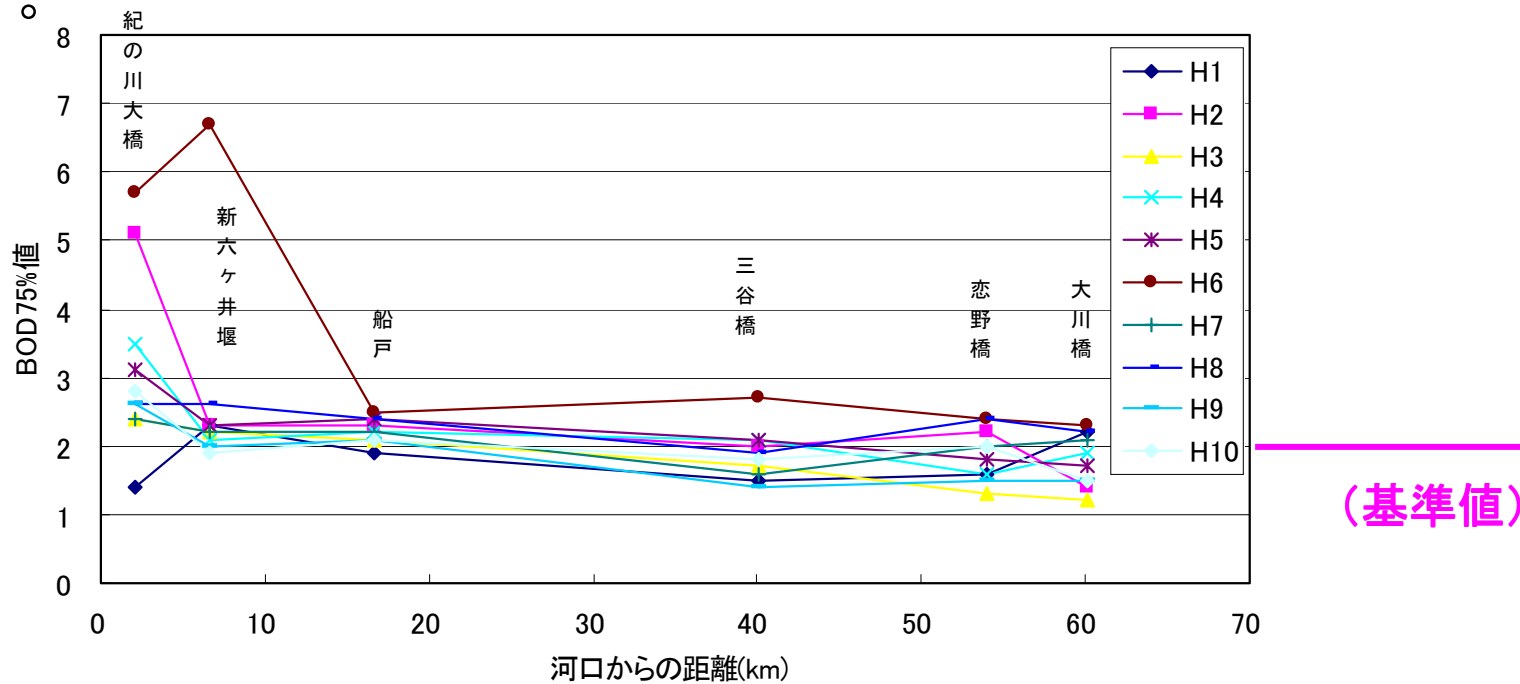
類型	環境基本法に基づく環境基準				
	水素イオン 濃度(pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸 菌群数
A	6.5以上 8.5以下	2mg/l以下	25mg/l以下	7.5 mg/l以上	1000 MPN/100ml 以下

BOD75%の現状(縦断変化)

BOD (biochemical oxygen demand: 生物化学的酸素要求量)

水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量で、河川の有機汚濁を測る代表的な指標です。

一般に、この値が大きくなればなるほど、水質汚濁が激しいことになります。



上図に示す6地点での環境基準は2mg/l以下です。平成に入って現在に至るまで、船戸地点より下流では、環境基準値を上回っています。

その他の地点は、環境基準値を上回ってる年もあるが、近年では、環境基準をクリアしています。

ダイオキシン調査

●ダイオキシン

紀の川の船戸地点におけるダイオキシンの調査結果は下表のとおりであり、環境基準(1pg-TEQ/L以下)を満たしている。

調査地点	船戸
採水日 / 項目	ダイオキシン (pg-TEQ/L)
平成10年7月22日	ND
平成10年11月18日	ND
平成11年8月4日	0.081
平成11年11月25日	ND
平成12年2月9日	0.18
平成12年10月26日	0.10

1—2 水質事故

水質事故対応

オイルマットでの対策状況
(藤崎井堰上流)



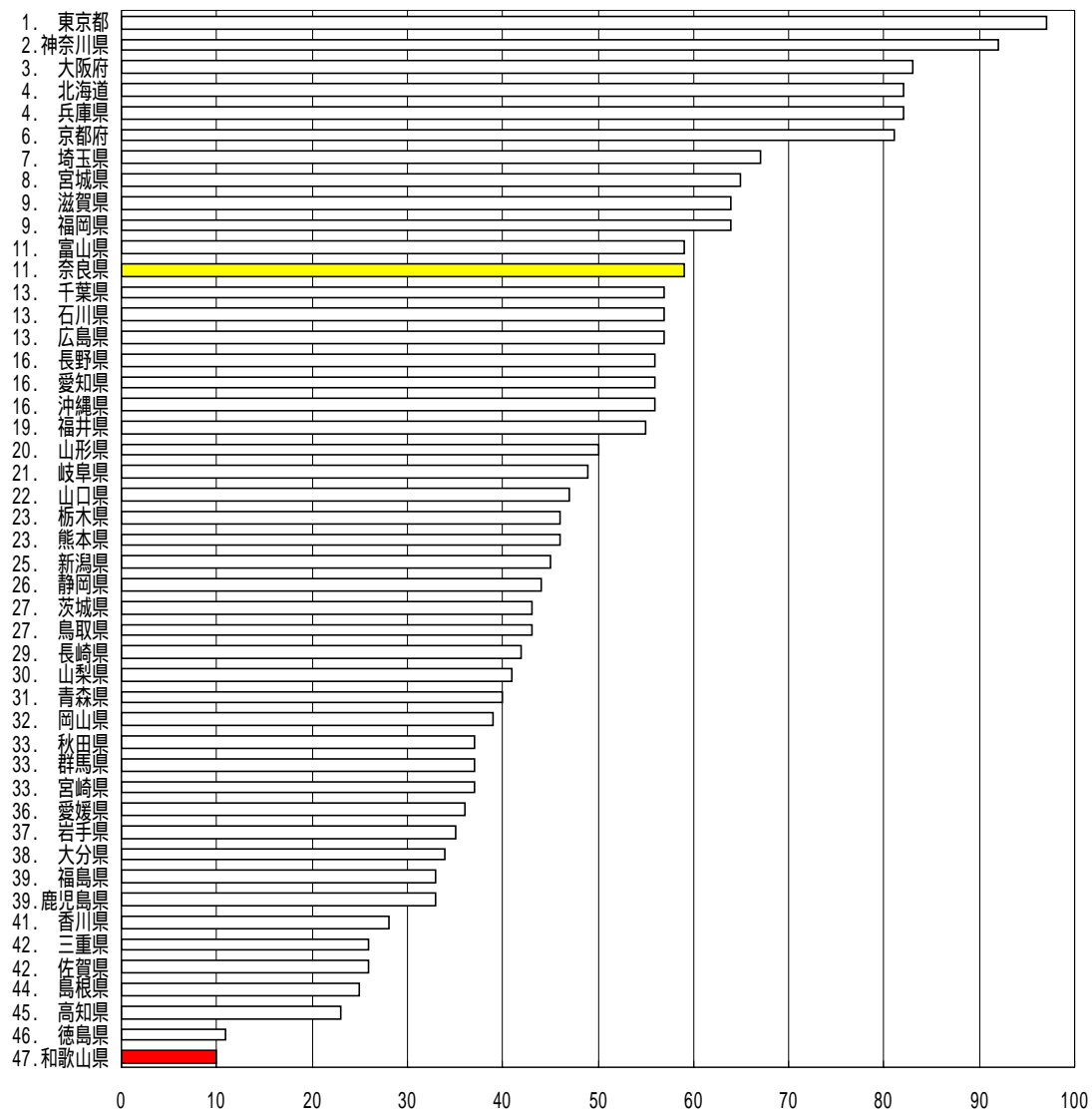
オイルフェンスによる対策状況
(井阪橋付近)



1—3 下水道整備状況

下水道普及率 <都道府県別下水道処理人口普及率>

平成12年度末調査



奈良県と和歌山県の
下水道普及率は、それ
ぞれ59%、10%です。

国土交通省が、総務省が発表する住民基本台帳人口をもとに、とりまとめた。

紀の川水系下水道幹線系統

